会長挨拶

国大化学会発足から４年目を迎えて

国大化学会会長　米屋　勝利（昭和 37 年電化卒）

昨年度は横浜国立大学の創立 60 周年を迎え，11 月８日（日）のホームカミングデー (HCD) と合わせて 60 周年記念行事が催されました．当日は，中西準子氏（昭和 36 年応化卒）の「食のリスク，環境のリスク」と題する記念講演を拝聴することができ感銘を受けました．周知の通り，平成 16 年４月の国立大学の法人化に伴い，本学も「国立大学法人横浜国立大学」として再スタートし６年が経過しました．このことに関しては，昨年の国大化学会総会の講演と会誌（第６号）で横浜国立大学副学長國分泰雄氏が仔細に紹介されましたのでご存知であろうと思います．このような状況の変化に伴って，平成 19 年４月１日付で化学系３同窓会（横浜応化会，横浜電化材化会，横国化学会）が統合され，会員 7,000 人を擁する国大化学会としてスタートしました．

最初の２年間は初代会長樋口修一郎（応化・S35/2 卒）氏のリーダーシップのもと，組織体制（執行グループ制）と会則の整備，理念・活動方針の決定，基本計画の策定等の基礎固めが行われました．私は，そのあとを受けて，平成 21 年４月１日付で国大化学会第２期会長（任期２年）に就任しました．私の使命は前任者の路線を継承し実行することであると自負して任務にあたっております．組織体制としては，平井太一郎（応化・S41/2 卒），禅知明（物工・H1 卒），上田一義（学内化学系主任）の３氏に副会長をお願いし，七つの執行グループ（企画 G（L: 松本正和（応化・S45 卒）），会費納入促進 G（L: 本間昭弘（応化・S44/2 卒）），会誌・名簿 G（L: 鈴木恵一朗（電化・S45 卒）），総会・懇親会 G（L: 渡辺　博（電化・S38 卒）），ホームページ G（L: 横山幸男（電化・S49 卒）），庶務・会計 G（L: 堀　雅宏（電化・S43 卒）），教育研究支援基金運用 G（L: 榊原和久（応化・S50 卒））毎に役割を明確にして課題に取り組み今日に至っております．それぞれの活動内容と成果は各 G リーダから報告されているので割愛させていただきます．

私は任期２年間の最重点目標として，「国大化学会メンバー間のネットワークの構築」と「大学・学生支援」を設定しました．前者は，松本企画 G リーダーを軸として各 G が横断的に協力するプロジェクト的な体制によって推進し，後者は，企画 G と教育研究支援基金運用 G を中心に実施してきました．この中で，学生役員の諸君が積極的に討論に加わり施策立案に貢献しております．

以下，２つの重要課題について内容と進捗状況を報告しておきます．

(1)　国大化学会メンバー間のネットワークの構築

横浜国立大学工学部の前身である横浜高等工業高校が設立されてから約 90 年が経過し，設立当初の応用化学科，電気化学科から，時代変化に応じた組織の改変が行われてきました．平成に入るとその変化はさらに加速されて今日に至っているのは周知のとおりであります．その結果として，国大化学会員相互の情報交流ネットワークが大きく乱れてしまいました．工学部の他の同窓会も同じような事情を抱えており対応に苦慮していると聞いております．

学生・卒業生の皆さんは国大化学会の会員となっておられますが，現状はかなりの部分で会員相互の有機的なつながりが欠落しております．ご存知の通り，昭和年代卒業の会員には卒業年度毎にクラス幹事が設置されております．十分とはいえませんが，この制度がネットワークの要となって組織を支えてきました．一方，平成以降に卒業した若い世代の会員諸氏に関しては，大学の何度かに及ぶ組織改変のために，学内では同期のクラスとしての一体感がなくなっています．しかし，幸いなことに，多くの研究室単位ではグループは健在であり，教職員–先輩–後輩間の繋がりが保たれております．このような現

状把握によって種々検討が行われ，結論として会員を昭和以前と平成以降の卒業年度に分けて，前者では従来のクラス幹事を見直し，後者については，当面利用できる組織体，たとえば，研究室，クラブ活動等々を活用してネットワーク作りを行ってきました．そのため，名称もクラス幹事から同窓委員に変更しました．しかし，これは当面の応急措置であり，最終的にはクラス単位でまとめあげる必要があろうと私は考えております．メンバー各位の努力によって，かなりの委員の整理が進み，3 月 27 日（土）に第 1 回同窓委員会を開くことができました．これからの 1 年間でこれが具体的な新規のネットワークとして発足できることを願っておりますので，会員皆様にはご支援とご協力賜わりますよう改めてお願い致します．

(2) 大学・学生支援

現在，国大化学会は大学・学生・OB のトライアングルの中心に位置付けられると考えております．このことは，OB 間の相互交流はもとよりですが，大学及び学生支援を従来以上に重視した組織体であるということです．当然のことながら，会員の皆様の同窓会とのかかわりは学生時代から始まります．すなわち，国大化学会が現役の学生からあらゆる年令の卒業生をつなぐ組織体であるということです．その中で，同窓会が学生を支援することは最も重要な役割の一つであると私は認識しております．かなり前から，同窓会が担当する化学系講義として「OB と語る会」が実施されており，その他に，謝恩会やスポーツ大会開催などへの支援を行ってきましたが，国大化学会に移行してからは，新たに大学・学生支援のための基金を設置しました．その運用に当たっては，随時役員会等で協議し教育研究支援基金運用 G が中心になって実行しております．その範囲も，さらに，学生実験補佐へのサポート，大学内懇親会費用の補助，学会への参加費補助等へと拡大しつつあります．その他に学生への奨学金や表彰制度なども検討しているところです．ご承知の通り，最近は大変な就職難ですが，このことに関しても同窓会として恒常的に就職活動を支援する組織を作ってゆきたいと考えております．個人的なことですが，私自身も先輩の紹介で企業に就職し，その後縁あって母校に移り今日に至っていることを考えると，先輩の呼びかけで今日があると言っても過言ではないと思います．少なくとも「卒業生の皆さんは母校の学生に対して温かい」存在です．先輩から話を聞くことは，あらゆる面で有益であると私は信じております．ともかく，このような OB の就職支援によって，学生諸君が世間の動向や物の考え方を学ぶことは，自分の将来を決めるうえでも大いに役に立つことと思います．このことは，翻って考えると，学生諸君が OB になった時に，学生を支援してやろうという意識を芽生えさせ，学生→卒業生→学生支援という血の通ったサイクルが出来上がってゆくであろうことを確信しております．

(3) 今年度の重要行事・事業

最後に今年度に予定されている国大化学会関連の重要行事を挙げておきますので，皆様の積極的なご参加とご協力をお願いします．

- 平成 22 年度国大化学会総会：平成 22 年 6 月 19 日（土）崎陽軒本店（横浜駅東口）
  講演会講師：旭化成(株)　蛭田史郎社長．横浜国立大学経営協議会の委員もされておられます．
- 同窓会名簿の改訂：平成 22 年秋に発行予定
- ホームカミングデー (HCD)：平成 22 年 10 月 30 日（土）横浜国立大学
  今年度は工学部同窓会連合が担当同窓会となり，平井太一郎副会長が筆頭副委員長を務めます
- 横浜国立大学創立 60 周年記念行事としての募金活動：期間平成 21～23 年度
- OB と語る会：物質工学科化学系学部・大学院生を対象．春秋 2 回